

2025年度事業活動計画(2025年4月1日～2026年3月31日)

2025年度の協会の活動方針は、2024年度と同じく以下を掲げ、前年度十分に実施の出来なかった活動に対して強化していくものとする。

全国レガシーギフト協会の特徴の再認識：他の団体と以下のポイントでの差別化を図った活動を行っていく

- ・ 中立公正な組織であり、遺贈寄付を受けることを目的とはしない
- ・ 遺贈寄付推進のために、遺贈寄付の情報発信を網羅的に行い、仕組みを提供し、遺贈寄付を取り巻く社会環境の整備を推進していく
- ・ 団体の遺贈寄付担当者同士のコミュニティを形成していく(交流、相互研鑽の場の創出)

協会では主に次の取り組みを実施していくこととする。

1. 加盟団体との定期Mtgの開催、ベストプラクティスの共有とその横展開の支援
2. 遺贈寄付の担い手が、協会のパートナーであり、学び合う仲間のコミュニティの一員であるという環境の創造
3. 終活事業者、金融関係者、士業法人との新しい関係性の構築
4. 遺贈寄付ウィークで求心力となるイベントの実施
5. 変化する社会環境に即した「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」を整備し、まずは身近な関係者への徹底

上記重点施策の具体的な取り組み計画は以下のとおりである。

1. 加盟団体との定期Mtgの開催、ベストプラクティスの共有とその横展開の支援

加盟団体が地域にて積極的に動いてもらえるような働きかけをすると共に、協会と加盟団体の定期的な戦略ミーティングを行うことにより、団体の課題の把握、他加盟団体のベストプラクティスの紹介等の仲介役を担うようにする。

重点施策

- ・ 加盟団体との定期ミーティングの開催
- ・ 地域でのイベントの促進

具体的な活動計画

- ・ 総会後にお宝(ベストプラクティス、困りごと、活動目標や活動計画等)共有会を実施することにより、他団体の事例や悩みを知り、仲間がいることを実感していただく。
- ・ 遺贈寄付ウィーク、遺贈寄付サロンの地域での開催の実施。

2. 遺贈寄付の担い手が、協会のパートナーであり、学び合う仲間のコミュニティの一員であるという環境を創造

協会の加盟団体やパートナーとして加入している意義をそれぞれが感じていただき、自団体で説明でき、継続してもらえるような価値を提供し続けていく。そして会員という立場のみならず、遺贈寄付を推進していくコミュニティの一員としての価値を感じていただくような環境を整えていく。

重点施策

- ・ 長年遺贈寄付に取り組んでいる、アドバンス的な存在の会員も、協会のパートナーでいることにより、最新の知識や、複雑なケースも扱える知識と技量がつく、と思ってもらえるような機会の提供
- ・ 中堅クラスや遺贈寄付の受入を始めたばかりの団体にも光が当たるよう、協会からの機会提供とコミュニティへの参加を誘導

具体的な活動計画

- ・ 会員限定、テーマ特化(ex. 未上場株の遺贈、包括遺贈の限定承認等)の学び合いの場を年1, 2回、オンラインにて開催。会員限定遺贈寄付サロンを想定。

- ・ 遺贈寄付ムービー：遺贈寄付ライブに代わる企画として、遺贈寄付の受入をしている、初期段階の団体を優先し、団体紹介ムービーを作成し協会HPにて紹介するとともに団体に提供。コミュニティ内での助けあいのために、団体同士の理解の向上や支援にも繋がるような活動を目指す。
- ・ レガシーパートナーとアドバンストレガシーパートナーの中間的な位置づけとなる新しい区分の新設(スタンダードレガシーパートナー)、多様な協会との関わり方を提供する。

3. 終活事業者、金融関係者、士業法人との新しい関係性の構築

既存の関係者だけでなく、金融関係、士業、終活事業者等が遺贈寄付を理解し、遺贈寄付希望者に対して適切な助言、アドバイスをし、遺贈寄付の準備が進むことが遺贈寄付の発展に寄与する。そのためにも遺贈寄付の意義や価値が、それぞれの立場で語られる事が出来るようになっていくことを目指す。

重点施策

- ・ 士業、金融、終活事業者への遺贈寄付の認知、価値の理解向上を図る。
- ・ 横展開できるような具体的な事例の創出

具体的な活動計画

- ・ エンディング産業展(2025年9月10日、11日)への出展：昨年よりもブースを拡大し、共同参加団体も6団体にて出展。主催者との関係構築により、エンディング産業界での遺贈寄付の認知と理解の向上を図る。
- ・ 遺贈寄付サロンのスピーカーとして適宜終活事業者、関連士業団体を招聘し、コミュニティとの接点を構築していく。
- ・ 金融機関との連携事例を、どこか地域で1つは創り上げる。

4. 遺贈寄付ウィークで求心力となるイベントの実施 (2025年9月10日(水)~19日(金))

遺贈寄付ウィークでのリード役としての協会の役割は一定の成果を果たしたと考え、2025では主たる実施は地域での加盟団体、また各受遺団体となるよう、転換を図っていく。

重点施策

- ・ 協会の役割と加盟団体やレガシーパートナーの役割を分けて構成してみる。
- ・ 地域でのウィークの活性化を支援

具体的な活動計画

- ・ 遺贈寄付ウィーク2025の目玉イベントとして「遺言書作成ワークショップ(仮)」を企画する。本会場とサテライト会場を繋ぎ、各地域でのサテライト会場では、これをきっかけに寄付者との接点を構築、深めてもらう。
- ・ 協会が地域に出かけるなど、地域の支援を強化する。
- ・ 遺贈寄付実態調査は継続実施とする。

5. 変化する社会環境に即した「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」を整備し、まずは身近な関係者への徹底

高額な寄付となることの多い遺贈寄付で、今後ますます気をつけて行くべき倫理について、協会がリードしてその重要性を訴求すると共に、業界スタンダードづくりをリードしていく。

重点施策

- ・ 現状に即した「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」を整備し、まずは身近な関係者への徹底を図る

具体的な活動計画

- ・ 「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」の改定版を作り、会員への徹底と、遵守するパートナーへマークを提供することにより、気運を醸成していく。
- ・ 福祉分野で作られたガイドラインも勉強しポイントを押さえる。

7. 事務局の事業、予算規模、体制の拡大

活動の目標

- ・ 加盟団体、レガシーパートナー数、区分を増やすことによる財源確保

生み出したい価値

- ・ 安定的な協会運営を継続することにより、協会の社会的役割を継続して果たしていけるようにする

具体的な活動計画

- ・ 財源として遺贈寄付ウィークの協賛金が減る分、パートナーの増加により補っていくようにする。
- ・ 遺贈寄付ウィークの実施方針変更により関連業務が減少。今後の業務量に応じて事務局スタッフの業務配分を適切に見直す。